

## 2011 SUPER GT Rd.6

**吉田広樹**  
〈富士スピードウェイ〉

前回の鈴鹿レースから3週間のインターバルを挟んで迎えた第6戦。今回のレースは通常通りメルビン選手と2人で戦うこととなりました。菅生、鈴鹿と横溝選手が加入してもらったことにより大きく進んだことをしっかり活かして挑みました。

### 9月10日 フリー走行 DRY

前回の鈴鹿レースでリアダンパーが破損していたことが判明したので、今回は新しいタイプのダンパーをフロントにも装着しフリー走行を行うこととなりました。ドライコンディションで行われたフリー走行で持ち込みセットと新しいダンパーの確認を行います。まずは計測3周だけアタック、メルビン選手にも3周アタックしてマシンフィーリングを確認してもらいました。その後は再び私に交代し、セットアップを進めるべくコースインします。しかし計測1周目からマシンに異変を感じたため無線でチームに状況を伝えていたのですが、その最中にトラブルが発生。そのまま走行することが難しくなり、セッション終了となってしまいました。

### 公式予選 DRY 18位/23台中

今回の予選はスーパーラップ方式だったため、1回目の予選でトップ10に残らなければなりません。フリー走行でセット



アップが出来なかったため、フリー走行初めの3周のフィーリングからセッティングを変更しコースインします。まずは計測1周だけのアタックで1'45.8というタイムを刻み、メルビン選手に交代。その後セッティングを変更し残り4分で再びコースイン。残り時間も少なかったため計測1周目からアタックを行い1'45.4と1回目のタイムを上回るタイムを刻みます。しかしマシンバランスは決して良くはなく、思ったとおりに走らせることが出来ませんでした。今回はフリー走行でセットアップを進めることが出来なかったためトップ10には程遠い18番手というポジションになってしまいましたが、短い予選時間の最中でも積極的にセットチェンジを行えたことで確認できたことも沢山あったと思います。

### 9月11日 決勝レース DRY 20位/23台中

迎えた決勝日はフリー走行直前から雨が降り始め、急遽WETコンディションでの走行となりました。昨日の予選フィーリングからフロントダンパーを前回まで使用していたものに直し、走行することとなりました。レインタイヤの手配が遅れたことから残り10分くらいからのコースインとなりましたが、走り始めてすぐにタイムをあげていくことが出来ました。終盤には内圧が上がり過ぎたことからタイムの上がり幅が少なかったですが、WETコンディションでのフィーリングはよく1番手でフリー走行を終えました。午後になり、朝の天気とは打って変わり真夏のような日差しの中ウォームアップラン



**THUNDER**  
RACING ASIA

〈NO.1〉

## 2011 SUPER GT Rd.6

吉田 広樹  
〈富士スピードウェイ〉

が始まりました。少ない時間の中で、変更したダンパーのバランスを確認しセットチェンジを行います。そして雨上がりということもあり、気温・路面温度共に上昇した中250キロのレースがスタートしました。スタート直後は1コーナーから大混乱で、いたるところでポジションを確保すべく激しい争いが行われていました。そんな中上手くポジションをあげることができ、2周目までに5台を抜いて13番手へポジションアップ。その後さらにひとつポジションを上げ12位を走行していたのですが、10周目付近からアンダーステアが大きくなり、後続を抑える防戦一方のレースとなってしまいました。マシン特性としてはストレートスピードが速かったのですが、徐々にブレーキも厳しくなり、アンダーステアも重なってフロントタイヤをいたわっての走行となりました。途中私のミスで15位までポジションを落としてしまいましたが、30周まで周回を重ね6位でピットイン。メルビン選手にドライバー交代し、ピット作業を終え12位でコースへ復帰します。そこからはメルビン選手が安定した走行で周回を重ねてくれたのですが、最終的に20位でのチェッカーとなりました。今回のレースウィークを振り返り、凄くタブなレースだったと思います。フリー走行でセットアップ

を行えなかったことが大きく響いていたと思いますが、私のセットアップ能力をもっと磨いていかなければいけないことを実感しました。今のGTでは土曜日の午前中までにセットアップを進めていく必要があり、さらに2人のドライバーでそこを共有しながら進めていかなければいけません。もっと私の感性を研ぎ澄まし、1周たりとも無駄にせずレースウィークを過ごしていきたいと思います。またレースウィークでの走行が少ないのでレースまでにどれだけチームと同じ方向を向いて進めていけるかがポイントとなると思います。しっかりコミュニケーションをとって、残り2レースチームみんなまで前進していきたいと思います。それでは引き続きご指導、ご支援宜しくお願い致します。

Thunder Asia Racing

吉田 広樹



THUNDER  
ASIA  
RACING

<NO.2>